古文の仮名遣い（教科書Ｐ１３８）

古文には、現代と異なる書き表し方があります。これは平安時代の発音に合わせた書き表し方で、歴史的仮名遣いといいます。

発音は時間がたつにつれて変化しましたが、書き表し方は長く残りました。つまり、話し言葉と書き言葉は違っていたのですが、明治時代には一致するようになりました。

	きまり		語例
	歴史的仮名遣い	現代仮名遣い	歴史的仮名遣い	現代仮名遣い
①	ゐ・ゑ・を	い・え・お	ゐど（井戸） こゑ（声） をとこ（男）	
②	ぢ・づ	じ・ず	ふぢ（藤） みづ（水）	
③	む	ん	行かむ	
④	語頭以外の は・ひ・ふ・へ・ほ	わ・い・う・え・お	あはれ 使ひ 思ふ まへ（前） かほ（顔）	
⑤	くわ・ぐわ	か・が	くわし（菓子）	
⑥	ア段＋う	オ段＋う	やうす（様子） まうす（申す）	
⑦	イ段＋う	イ段＋ゅ＋う	うつくしう	
⑧	エ段＋う	イ段＋ょ＋う	けふ（今日） てふ（蝶）	
⑨	っ	っ（促音）	とつた（取った）	
⑩	や・ゆ・よ	や・ゆ・よ（拗音）	おちや（お茶）	